

委託事業実施内容報告書
平成30年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(B)】

実施内容報告書

団体名：富山県高岡市

1. 事業の概要

事業名称	平成30年度 高岡市「くらしのための日本語事業」
事業の目的	本市多文化共生プランの改訂にあたり、H28年に外国籍市民を対象に実施したアンケートから、成人用の日本語教育機会を求める声や日本人との交流機会に対する要望が高いことが分かった。本市にはブラジル系住民を中心として定住者・永住者が多く、日本語の能力が就労に直結するだけでなく、日本で子どもを産み育てる層も多いことから、必要な日本語教育機会の提供および日本語指導に携わる人材育成を行うものである。また、日本人側からはコミュニケーションのための交流の重要性と手段の支援に対する要望が見られたことも鑑み、地域の人々と交流を行いながら、日本語の習得・実践を行うことのできる機会を設ける。
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	以前から日本語を学びたい外国籍市民の声があったものの、実際に開催すると希望する参加者が少ない状況となった。外国籍市民が必要とする日本語教室の内容や開催日時の設定についても検証し、外国籍市民が求める日本語教室のコンセプトを作成し、日本語習得に活かしたい。 また、本市の外国籍市民の構成は、中国・東南アジアからの短期滞在の技能実習生、日本人の配偶者、日系ブラジル人や長期滞在者に大別され状況に応じた様々なレベル・内容の日本語教育が必要である。
本事業の対象とする空白地域の状況	
事業内容の概要	・広く市民に多文化共生の意義を伝え、外国籍市民を取り巻く問題に理解を持つ層を増やし、より多くの支援者を獲得するため、「教育アシスタント」ではなく「交流サポーター」の位置付けで、日本語教室の補助者等を養成(取組1)し、その後の活動に繋げることができた。 ・「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラムとして、生活に必要とするそれぞれの分野別日本語理解プログラム(取組2:生活のための日本語講座「にほんごくらす」、単発開催)を展開した。 ・上記のくらしのための日本語教室だけでなく、小学校区単位を目安とした地域密着型の定期的な交流機会を開設して、地域住民とコミュニケーションを通じた日本語学習機会を提供した。(取組3:地域交流サロン) ・漢字理解の有無は、外国籍市民が暮らしていくうえで日本語理解の段階を大きく上げることとなるため、漢字・ひらがなに特化した識字専門クラス(取組4:漢字習得基礎講座「漢字で社会に飛び出そう」)を開設した。一定の日本語が使える、読み書きを実践することが重要であることから、実際に漢字・ひらがなを使って、SNSを活用した情報発信を行い、外国籍市民の日本語学習への興味、日本人住民の理解の広がりに繋がった。
事業の実施期間	平成30年5月29日～平成31年3月20日(11か月間)

2. 事業の実施体制

(1) 運営委員会

【運営委員】

1	濱田 美和	富山大学国際交流センター・教授
2	中河 和子	トヤマ・ヤボニカ・代表理事
3	横田 誠二	国境なきUNDOKAI実行委員会・委員長 高岡市議会民生病院常任委員会・委員長
4	木口 実	富山日伯交流友の会・会長
5	野原 恵美	高岡市日中交流協会・会員
6	高木 達郎	高岡市連合自治会・理事 高岡市多文化共生推進委員会・委員
7	秦 美代子	牧野校下女性連絡会・委員
8	竹中 伸行	高岡商工会議所・委員 高岡市多文化共生推進委員会・委員
9	荻布 彦	富山県国際課・課長
10	森田 充晴	高岡市市民生活部・部長



【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成30年8月31日 (金) 13:30～14:30	1時間	高岡市役所7階会議室	濱田委員他9名全委員出席	1. 外国籍市民の現況について 2. 高岡市「くらしの日本語普及事業」の概要について
2	平成31年1月22日 (火) 14:00～15:00	1時間	高岡市役所7階会議室	中河委員、木口委員、野原委員、高木委員、秦委員、荻布委員、森田委員	1 日本語支援ボランティア養成講座について 2 生活のための日本語講座「にほんごくらす」の実施状況について 3 漢字習得基礎講座「よみかきくらす」の実施状況について
3	平成31年3月15日 (金) 10:00～11:00	1時間	高岡市役所8階会議室	濱田委員、中河委員、木口委員、高木委員、秦委員	1 生活者としての外国人のための日本語教育事業実施報告 ・日本語支援ボランティア養成講座実施報告 ・日本語講座「にほんごくらす」について ・地域交流サロンについて ・漢字習得基礎講座「よみかきくらす」について ・「くらしの日本語事業」情報提供について 2 全取り組み結果の講評等

(2) 地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	富山大学・高岡法科大学 留学生等への案内や学生への周知を依頼 地域の外国人団体・コミュニティ 外国籍市民への周知やニーズ把握について協力依頼 国境なきUNDOKAI実行委員会 市内の外国人コミュニティ等の状況把握、情報周知について連携 高岡市商工会議所・雇用企業を通じ被雇用者への案内について協力依頼 高岡市多文化共生庁内推進会議 外国籍市民への日本語理解ニーズについて情報共有 牧野校下女性連絡会・牧野校下連合自治会・牧野校下社会福祉協議会 地域交流サロンの実施について連携 高岡市立牧野公民館 地域交流サロン開設・実施について連携
------	--

(3) 中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制

本事業の実施体制	トヤマ・ヤボニカの講師の方には、これまでの経験を活かし、日本語学習の支援者養成を第一として指導していただいた。(取組1) 養成講座の修了者を実際の日本語教室(取組2～4)で補助者として活動していただき、支援者としての熱意と素養を持った人材発掘に繋げた。 コーディネーターの秦氏は、地域事業(取組3)の中心となり、地域の運営組織を構成し、地域で主体的に事業内容を企画する土壌作り、また地域課題の発掘や地域内広報を担った。 コーディネーターの飛田主事は事業担当者として、全事業を対象に内容企画や外部及び庁内の連携調整、参加対象層への情報提供及びニーズ把握、広く市民に向けた情報発信と啓発及び各取組ごとの連携を含む事業の進行管理を行った。また、特に取組2・取組4を通じ、ボランティアを活用した体制拡充が図ることができた。
----------	---

3. 各取組の報告

＜取組1＞											
取組の名称		日本語交流パートナー養成講座									
取組の目標		多文化共生の理念および地域での外国籍市民とのコミュニケーションの重要性を理解し、日本語学習サポートを行うことのできる「日本語交流パートナー」の養成を行う。									
取組の内容		日本語を学びたい外国籍市民への支援や学習サポート、地域との交流の橋渡しができる人材を養成する。 本市では、外国籍市民の定住化が進んでいるが、日本人との交流機会がまだまだ少ないこと、また日本語教育に携わる人材も不十分であることから、外国籍市民と日本語で交流し、日本語を使ってコミュニケーションを取る機会の提供として捉え、寄り添える人材の育成を行い、関与する人材の裾野を広げる。 講座では、「本市の外国籍市民の現況」「外国籍市民とのコミュニケーションの取り方」「日本語教室についての紹介」「外国籍市民の日常生活に役立つこととは」「やさしい日本語の使い方」など、外国籍の人をサポートするための日本語指導基礎知識を学んだ。講師は、トヤマ・ヤボニカ中河和子氏ほか。									
☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動										
取組による体制整備		外国籍市民の日本語理解・日本人との交流に対するニーズを認識し、本市事業における取り組みのほか、それぞれの地域での交流の橋渡し役としても活動できる人材の育成を行った。現状としては、日本語教室に携わっている人材が乏しい地域であるため、できる限り多くの熱意ある人を把握し、できるだけ今後長く携わるることできるように育成に努めた。結果、15人の方が日本語支援ボランティアとして登録された。									
取組による日本語能力の向上		会話を優先した支援者を増やすことで、トレーニングの機会を増やすことができ、会話を中心とした日常生活で必要となる日本語の早期上達に繋げることができた。今後、支援に取り組む人材を増やし、優れた指導人材発掘に繋げたい。									
参加対象者		日本語支援ボランティア活動に関心がある人（日本語で支障なく生活できる場合は、日本語を母語としない者の参加を認める。）					参加者数 (内 外国人数)		16 人(人)		
広報及び募集方法		市広報誌・HP等で周知した。そのほか、チラシを作成し、市内関係施設、公民館に配布し募集を行った。									
開催時間数		総時間 32.5 時間(空白地域時間)					内訳 2.5 時間 × 13 回				
主な連携・協働先		トヤマ・ヤボニカ、高岡市国際交流協会、牧野校下女性連絡会、高岡市連合自治会、国境なきUNDOKAI実行委員会									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本	
										16	
※該当する場合のみ											
実施内容											
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名		
1	平成30年6月2日(土) 10:00～12:30	2.5	高岡市役所 8階会議室	16	日本語支援ボランティアに求められること	・「高岡くらしの日本語普及事業」のフレームワーク ーことばが分からないということー ・日本語支援ボランティアに求められること		秦 志津 中河 和子			
2	平成30年6月9日(土) 10:00～12:30	2.5	高岡市役所 8階会議室	14	コミュニケーションについて	日本語があまりわからない人とコミュニケーションするために ー日本語教室の在り方や、そこでのボランティア活動で大切なことについてー		田上 栄子			
3	平成30年6月16日(土) 10:00～12:30	2.5	高岡市役所 8階会議室	12	多文化共生について	「文化が違う」を考える多文化共生		秦 志津			
4	平成30年6月23日(土) 10:00～12:30	2.5	高岡市役所 5階会議室	15	日本語支援の対話について	日本語支援の新しい形を知ろう ー対話中心の活動ー		田上 栄子			
5	平成30年6月30日(土) 10:00～12:30	2.5	高岡市役所 8階会議室	11	対話の実習	対話中心の活動を経験しようー実習ー		田上 栄子			
6	平成30年7月7日(土) 10:00～12:30	2.5	高岡市役所 8階会議室	12	高岡市の現況	高岡市のいまー市内の状況を知ろう		秦 志津			
7	平成30年7月14日(土) 10:00～12:30	2.5	高岡市役所 8階会議室	11	にほんご・くらすについて	「にほんご・くらす11回」クラスの概要		田上 栄子			

8	平成30年7月21日(土) 10:00～12:30	2.5	高岡市役所 5階会議室	14	日本語の構造を 知る(1)	より良い支援のために 日本語の基本的な構造を知る(1) －わかりやすく、やさしい日本語で はなすことの大切さ－	松岡 裕見 子	
9	平成30年7月28日(土) 10:00～12:30	2.5	高岡市役所 8階会議室	11	日本語の構造を 知る(2)	より良い支援のために 日本語の基本的な構造を知る(2) －日本語の何が難しいのか。暮らし に必要な日本語とは－	中河 和子	
10	平成30年8月4日(土) 10:00～12:30	2.5	高岡市役所 8階会議室	11	日本語の構造を 知る(3)	より良い支援のために 日本語の基本的な構造を知る(3) －日本語の何が難しいのか。暮らし に必要な日本語とは－	松岡 裕見 子	
11	平成30年8月18日(土) 10:00～12:30	2.5	高岡市役所 8階会議室	12	読めない書けな い人への支援	読めない・書けない人に対してでき ること －地域における外国人の状況を知 り、外国人が日本で暮らすというこ とはどういうことかを考える－	高畠 智美	
12	平成30年8月25日(土) 10:00～12:30	2.5	高岡市役所 8階会議室	12	読み書き支援体験	読み書き支援活動を体験してみよう －言葉の持つ力と、コミュニケー ション－	高畠 智美	
13	平成30年9月1日(土) 10:00～12:30	2.5	高岡市役所 8階会議室	14	日本語支援活動 について	日本語支援活動に参加しよう －講座全体をふりかえり、再度ボラ ンティア活動で大切なこととは－	田上 栄子	

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第2回 30年6月9日】

日本語が分からない人とコミュニケーションするために日本語教室の在り方や、そこでのボランティア活動で大切なことについて

①ボランティアの基礎力＝活動創造力～ネタが教室をおもしろくする。

「教室に来る外国人と友達になろう。一緒に何か話したい」と思ったときどんな話(＝話題＝ネタ)をするか。

⇒・ネタを見つけて、いきいきとした活動を生み出す(相手の興味・経験・知識などの部分のネタがいいか考える。

・ネタを広げたり、深めたりしながら、対話を続ける(話す相手がどんな興味をもっているかわからない、一つの深い経験を軸に広げていく。)



○取組事例②

【第8回 30年7月21日】

・日本語の構造、文法関連の基礎知識を学ぶ意味⇒日本語を客観的にみることができる。

→①外国人の頭の中が想像できる。②外国人にとって何が難しいのか見当がつくようになる。③外国人にとってわかりやすい日本語が話せるようになる。

⇒「分かり合う日本語」の上手な使い方に。

・品詞とは語のグループ。文の中での働きと活用の仕方でも分類したもの。

・文型とは、日常交わされている様々な表現を、文の構造や表現意図からいくつかの主要な文の型に整理したもの。

・外国人が使っている日本語に文型がどのように使われているのか。



(2) 目標の達成状況・成果

講座終了後のアンケートでは、「サポーターの役割は、外国人参加者に寄り添う伴走者として活動することが大切だと学んだ。」「外国人と日本人ボランティアが対等な関係で日本語を使ったコミュニケーションをし、人間関係を築き、相互理解を深めていく過程で日本語が上達していく」「日本語支援の活動を実施するときには、支援を希望する方の状況把握がとても大切であり重要だと思った」などの感想から、ボランティアとして外国人に寄り添って支援することの大切さを理解していただくことができた。取組2、取組4でボランティアとして活動され、今後、ボランティアによる日本語教室の開催につなげていきたい。

(3) 今後の改善点について

受講者にとっては、座学講座のほか、受講者同志が意見交換する取組や受講者側からの要求によるカリキュラムを取り入れる。

＜取組2＞											
取組の名称		生活のための日本語教室「にほんご・くらす」									
取組の目標		テーマ別の開催とし、生活に必要な日本語を、必要な人が学ぶための機会を提供する。									
取組の内容		本市に居住する外国籍市民は、短期滞在者と定住傾向のある長期滞在者に大別され、それぞれ日本語教育に対するニーズやレベルが異なることから、必要な対象が必要な言葉を優先し、無理なく学ぶことができるよう、単発開催のテーマを定めた日本語講座を開催する。 特に本市は外国籍または外国にルーツを持つ子どもの割合が高いことから、健康診断や予防接種、保育所や学校との連絡等、子育てに関する日本語にも注力する。 内容は、「防災」「保育所入所」「行事」「マナー」「面接の受け方」「病院への行き方」など生活に必要なテーマを提示し開催する。									
☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動										
取組による体制整備		参加者の外国籍市民の日本語能力を見極め、生活に必要なテーマを定めて開催した。									
取組による日本語能力の向上		ある程度日本語を理解する者も少なくなく、家族に日本語話者の居る外国籍市民からの日本語習得ニーズも高いことから、初心者だけでなく長く滞在している人にとっても、現在必要性のある分野を優先的に選んで有効に学習することができた。また、受講者自身のニーズが高い部分を集中的に学び、「役に立った」と感じてもらうことができ、更なる学習への意欲につながったものと感じている。									
参加対象者		外国籍市民及び外国にルーツを持つ学生、非日本語母語話者					参加者数 (内 外国人数)		12 人(12 人)		
広報及び募集方法		市報およびHP、SNS、外国人団体等のネットワークにより広く募集した。 市で関係する他の部署の窓口等でも案内を行った。									
開催時間数		総時間 27.5 時間(空白地域時間)				内訳 2.5 時間 × 11 回					
主な連携・協働先		高岡市国際交流協会、高岡市多文化共生庁内推進会議									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本	
	5			1							
	※該当する場合のみ アメリカ(3人)、オーストラリア(2人)、イギリス(1人)										
実施内容											
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名		
1	平成30年9月9日(日) 10:00～12:30	2.5	高岡市ふれあい福祉センター	8	わたしを伝える	自己紹介:「ともだちになろう」		田上 栄子	高島 智美(補助指導者) サポーター14名		
2	平成30年9月23日(日) 10:00～12:30	2.5	高岡市ふれあい福祉センター	5	生活を見直す	旅行:「旅行の話をして、日本文化にとびこもう」		高島 智美	中河 和子(補助指導者) サポーター12名		
3	平成30年10月14日(日) 10:00～12:30	2.5	高岡市ふれあい福祉センター	4	生活を見直す	「休みの日にしていること&いつもしていること」		田上 栄子	要門 美規(補助指導者) サポーター10名		
4	平成30年10月21日(日) 10:00～12:30	2.5	高岡市ふれあい福祉センター	4	関係づくり	理想の人:「私はこんな人になりたい」		要門 美規	中河 和子(補助指導者) サポーター9名		
5	平成30年11月11日(日) 10:00～12:30	2.5	高岡市ふれあい福祉センター	4	災害	災害に備える:「日本ではどんな災害がありますか。そのときどうするの」		要門 美規	中野 香保里(補助指導者) サポーター9名		
6	平成30年11月25日(日) 10:00～12:30	2.5	高岡市ふれあい福祉センター	3	地域に暮らす	トラブル体験:「こんなトラブルありました。トラブルなくして仲良くなりたい」		中野 香保里	田上 栄子(補助指導者) サポーター8名		
7	平成30年12月9日(日) 10:00～12:30	2.5	高岡市ふれあい福祉センター	4	わたしを伝える	特技:趣味「わたしのじまん」		中野 香保里	要門 美規(補助指導者) サポーター8名		
8	平成30年12月16日(日) 10:00～12:30	2.5	高岡市ふれあい福祉センター	2	わたしを伝える	「わたしのふるさと」		要門 美規	海老江 絢香(補助指導者) サポーター9名		

9	平成31年1月20日(日) 10:00～12:30	2.5	高岡市ふれあい福祉センター	5	わたしを伝える	「あこのろのわたし&今のわたし」	海老江 絢香	田上 栄子(補助指導者) サポーター9名
10	平成31年1月27日(日) 10:00～12:30	2.5	高岡市ふれあい福祉センター	4	社会とわたし	将来の夢:「これからのわたしのしたいこと」	海老江 絢香	中河 和子(補助指導者) サポーター7名
11	平成31年2月10日(日) 10:00～12:30	2.5	高岡市ふれあい福祉センター	4	社会とわたし	仕事:「仕事をするわたし」	田上 栄子	中河 和子(補助指導者) サポーター10名

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第2回 30年9月23日】

「旅行へ行こう」をテーマに、旅行について会話をし日本語を学んだ。これまでどんなところに行ったか、これからどんなところに行きたいかなどを話し、グループごとに発表を行った。サポーターがやさしい日本語で質問し、外国人参加者が発表し、お互いにコミュニケーションが図れた。



○取組事例②

【第5回30年11月11日】

「災害について備える」をテーマに、外国人受講者とサポーターがグループになり、外国人受講者が体験した災害について会話をした。絵をみて災害の様子を外国人受講者がお話ししたり、災害が起きたらどんな行動をとるか会話により日本語を学んだ。また、災害が起きた時に持ち出す防災グッズについて話し合い、グループごとに日本語で発表を行った。



(2) 目標の達成状況・成果

外国人参加者1人に対し、2～3人の割合でボランティアの方がサポートするという体制で、会話中心の日本語教室を開催した。サポーターの方は、養成講座で学んだやさしい日本語で支援されており、グループごとの発表では、外国人受講者に答えを導くようにインタビュー方式で話しかけ、外国人受講者にとって話しやすい雰囲気となり会話も弾み、受講者からは「大変楽しかった」「日本語の勉強を続けたい」という声が多くあった。またサポーターの方たちにとっては、初めての方ばかりだったが、回を重ねるうちに受講者とのコミュニケーションが図られた。外国人受講者が少ないという課題もあったが、相互の交流が図られ和やかで温かい日本語教室の開催となった。

(3) 今後の改善点について

外国人受講者が、想像より少なかったため、周知期間を十分に設け、周知方法等に工夫を凝らし多くの外国籍市民の目に留まるように広報し、日本語を学びたい外国籍市民の参加を広げることとしたい。

＜取組3＞											
取組の名称		地域交流サロン									
取組の目標		日本語でのコミュニケーションを通じ、生活者としての日本語について習熟を深め、日常生活についても近隣住民と交流しながら、地域活動に参画し、安定した生活基盤を作ることのできる外国籍市民の増加に繋げる。									
取組の内容		本市はほぼ全域に外国籍市民が居住しており、核となる集住地域があるものではないが、中でも外国籍市民の割合が高い地域（旧小学校単位＝市立公民館設置単位）において、定期的な日本語でのコミュニケーション機会を設置する。 運営主体は地域組織によるものとし、地域の実情に応じ、地域課題の解決や参加者同士の交流拡大を行いつつ、日常生活に必要な日本語の習得・向上に繋げる。 設置基準は市立公民館区域単位とし、参加者募集案内もその区域内とするが、現状市域全域での開催ではないことから、地域外からの参加についての制限は行わない。 内容は、外国籍市民の「日本語能力の向上に寄与する」とし、地域でのニーズや課題の有無、また地域人材の構成により自由に設定し、地域住民との会話を優先し、日本文化や知識の提供、生活課題の解決、外国籍市民による母国文化の紹介など、継続的に参加者が集まり、地域での交流の拡大を図る。									
☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動										
取組による体制整備		設置区域の住民を中心とした、地域交流サロンの運営会議を設置した。 同会議には、運営主体である高岡市職員と、交流サポーター養成事業の修了者も共に参画した。									
取組による日本語能力の向上		コミュニケーションを中心とすることで、会話を中心とした日本語、特に日常会話の習熟に寄与することができた。 また、回覧板や地域の案内でわからないことを相談するなど、外国籍市民の生活に密接な内容について身近な人から学ぶことができ、回を重ねるうちに地域住民と気軽に日本語で話すことができる機会となった。この取り組みを超えたところでの、実際の生活を通じた学習機会にも繋がった。									
参加対象者		地域住民等					参加者数 (内 外国人数)		262 人(119人)		
広報及び募集方法		主として地域で作る広報、回覧板等を通じて広報を行う。 市HP、外国人団体等のネットワークを通じても周知を図る									
開催時間数		総時間 18 時間(空白地域時間)				内訳 3 時間 × 6 回					
主な連携・協働先		牧野校下女性連絡会、牧野校下連合自治会、牧野地区社会福祉協議会、高岡市立牧野公民館									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本	
	4		45				2		4	143	
※該当する場合のみ シリア(31 人)、ロシア(27人)、パキスタン(6人)											
実施内容											
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名		
1	平30年10月20日(土) 9:30～12:30	3	牧野公民館	37	仲間づくり「はじめまして、よろしく」	自己紹介、発表、など		秦美代子			
2	平成30年11月23日(祝) 9:00～12:00	3	牧野公民館	22	「外国籍の人の声をきく」	外国籍市民の日本へ来た目的や家族構成などインタビュー形式で聞き、地域住民と交流を深める		秦美代子			
3	平成30年12月16日(日) 10:30～13:30	3	牧野公民館	39	そば打ち体験とおにぎり作り	そば打ち体験、おにぎり作りを通じて道具や材料に日本語で交流を深める		秦美代子			
4	平成31年1月26日(土) 10:30～13:30	3	牧野公民館	47	日本の新年の紹介	餅つきやゲームで日本の文化を紹介し、日本語で「よいしょ、よいしょ、」と掛け声をかけるなど地域住民と交流を深める		秦美代子			
5	平成31年2月17日(日) 10:00～13:00	3	牧野公民館	64	シリアの国を学ぶ	シリアの国の紹介、シリアのスイーツ作り		秦美代子			
6	平成31年3月17日(日) 10:30～13:30	3	牧野公民館	54	食文化と多国籍アート	ハラルカレーを作る、集まった人で多国籍アートを描く、カレーを試食する		秦美代子			

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第1回平成30年10月20日】

参加者37人(地域住民21人 外国籍住民16人)

テーマ「はじめまして よろしく」

地域に暮らしている外国人と地域住民で6人ほどのグループになり、それぞれの自己紹介を行った。グループごとに紙にまとめ、外国籍住民が一人ずつ発表した。発表の際は、地域住民がやさしい日本語でインタビュー方式でサポートし日本語でお話した。



○取組事例②

【第4回平成31年1月26日】

参加者47人(地域住民23人 外国籍住民24人)

テーマ「日本のお正月について紹介」

日本の正月に飾る鏡もち等を外国籍住民に日本語で紹介し、餅つきや正月に行うゲームなどで地域住民と交流を深めた。餅つきでは、「ぺったん、ぺったん」「よいしょ、よいしょ」とかけ声をかけ、日本語で紹介するなどして生活に密着した日本語習得につながった。



(2) 目標の達成状況・成果

地域住民と地域に住む外国人の交流を6回開催した。地域のどこにどんな国籍の外国人が住んでいるのか分からないといった地域からの声があったが、参加者を集めるにあたり、学校に通う児童からの情報や外国人のキーパーソンの方からの情報などにより参加者を募ることができた。外国人のネットワークもあり大勢の外国人の参加に繋がった。地域では、子どもの悩みや、参加者の自己紹介、外国人からみた地域の感想や日本の印象を聞くことから交流が始まった。その結果、地域の外国人について知ることができ、コミュニケーションが図られ、子ども同士の交流もでき、地域での参加者同士の信頼関係が構築された。外国籍住民が企画する地域交流サロンを開催することもできた。アンケートからは「外国人の方のことが知れてよかった」、「地域での外国人の方と活動ができて良かった」などの感想が多かった。これを機会に交流事業の継続が期待でき、地域での行事への自主的な参画につなげていきたい。

(3) 今後の改善点について

地域においては、どこにどんな外国人の方が住んでいるのか把握することが大きな課題であり、また、交流事業を実施するには、参加者を集めるのが大変困難である中、地域で暮らす外国人キーパーソンが存在がとても重要である。参加者を募ったところでは、地域で暮らす外国籍住民の日本語能力にも個人差があり、日本語で交流するには、地域住民だけではなく、ボランティアの方のサポート体制により日本語を学ぶ機会としていきたい。また、地域での日本人、外国人のキーパーソンの育成にも取り組む必要がある。ボランティア登録者の方のサポート体制により、日本語を学ぶ時間も設けたい。

＜取組4＞										
取組の名称		漢字習得基礎教室「漢字で社会に飛び出そう」								
取組の目標		日本語習得の段階を大きく上げることとなる漢字識字に焦点を当て、日本語教育の専門家による漢字識字教育を行うことで、正しい知識と学習方法を身に付け、日本語の理解を深めるだけでなく、自身の学習力向上に繋げる。								
取組の内容		本市内には「日本語をまったく理解できない者」よりも、日系人やベトナムからの実習生等「ある程度の理解が可能な者」が多いことから、日本語理解の段階を上げ、幅を広げることのできる、「漢字」の識字に特化した連続講座を開催するもの。 講座に付随して、SNSを利用して学習した漢字を用いて学習者が投稿できる場を作り、学習支援・成果発表の場として利用するだけでなく、漢字を用いることで日本での繋がりがより広がることを実体験できる機会とする。 また、時間的に講座補助員としては参加しづらいボランティアをSNS支援者として活用することができることから、「ボランティア＝時間に余裕のある人」という従来からの認識に捉われず、支援する気持ちのある人に関わってもらうことのできる土壌を作る。 専門家による1からの漢字学習機会とする。漢字の読み書きを習う講座を開催する。								
☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動									
取組による体制整備		漢字識字は就労の場でも重要となることが多いことから、商工会議所等を通じ外国籍住民を雇用する企業への案内を通じて、事業の周知を図った。								
取組による日本語能力の向上		漢字の成り立ちを踏まえた正しい理解、学習方法を提供することで、基本的な漢字の学習を円滑に進められただけでなく、講座終了後により難しい漢字の学習を自身で進めていくことのできる力を身に付けることができたと考えている。また、SNSを利用したフィードバックを行うことにより、PCやスマートフォンを利用して正しい漢字を選択しつつ作文することで、日本語を書くことへの抵抗感が薄まり、また他者とのコミュニケーションが進む実体験を得られることから、今後の日本語習得の意欲向上にも繋がった。								
参加対象者		非日本語母語話者のうち、ひらがなをほぼ理解し、ゆっくりとした日本語の聞き取りに支障のない者					参加者数 (内 外国人数)		6 人(6人)	
広報及び募集方法		市報およびHP、SNS、外国人団体等のネットワークにより広く募集する。 商工会議所等を通じ、外国籍住民雇用企業へも案内を行う。								
開催時間数		総時間 15 時間(空白地域時間)				内訳 2.5 時間 × 2 回 2 時間 × 5 回				
主な連携・協働先		高岡商工会議所、高岡市商工会、国境なきUNDOKAI実行委員会								
受講者の出身 (ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
	1		1							
※該当する場合のみ		アメリカ(2人)、オーストラリア(1人)、イギリス(1人)								
実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名	
1	平成30年11月7日(水) 18:50～20:50	2	高岡市ふれあい福祉センター	2	生活漢字(買物、食品)	生活で日本語が読めないで困ったこと テキスト「漢字だいじょうぶ」		高畠 智美 海老江絢香	サポーター5名	
2	平成30年11月21日(水) 18:50～20:50	2	高岡市ふれあい福祉センター	2	生活漢字(電気製品、食品表示)	ひらがなの練習 テキスト「漢字だいじょうぶ」		高畠 智美 海老江絢香	サポーター3名	
3	平成30年12月5日(水) 18:50～20:50	2	高岡市ふれあい福祉センター	3	生活ひらがな・漢字(欠席通知)	テキスト「漢字だいじょうぶ」		高畠 智美 中野香保里	サポーター3名	
4	平成30年12月19日(水) 18:30～21:00	2.5	高岡市ふれあい福祉センター	2	自己紹介	書いてみようテキスト「漢字だいじょうぶ」		高畠 智美 海老江絢香	サポーター3名	
5	平成31年1月9日(水) 18:50～20:50	2	高岡市ふれあい福祉センター	4	作文(家族)	ひらがなを読むテキスト「漢字だいじょうぶ」		高畠 智美 中野香保里	サポーター2名	
6	平成31年1月23日(水) 18:50～20:50	2	高岡市ふれあい福祉センター	4	カナ書き方、かな復習(休みの日)、	テキスト「漢字だいじょうぶ」		高畠 智美 海老江絢香	サポーター3名	
7	平成31年2月6日(水) 18:30～21:00	2.5	高岡市ふれあい福祉センター	4	まとめ・感想	よみかきくすの感想テキスト「漢字だいじょうぶ」		高畠 智美 中野香保里	サポーター3名	

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第1回 平成30年11月7日】

漢字だいじょうぶのテキストにより学習した。そのほか、参加者の生活の中で読むこと、書くことをサポーターの支援により聞き取りを行い、用紙にまとめて読み書きを学んだ。また生活の中で読み書きができなくて困ったことなども取り上げ生活に必要な漢字、ひらがなの読み書きを学習した。買い物で目にする文字の読み書きについても割引の文字など、スーパーで目にする商品について漢字、ひらがなを学んだ。



○取組事例②

【第6回 31年1月23日】

「漢字だいじょうぶ」の復習:宿題をサポーターが確認。漢字だいじょうぶのテキストに沿って学習。家族(おとうさん、おかあさん)やしょうがつこう、きつぷなど小さい字を使うひらがなの復習、カタカナを書く練習も行った。休みの日の過ごし方について作文の練習も学習した。



(2) 目標の達成状況・成果

受講者からは、「生活に密着した漢字やひらがなを学習することができて良かった」、「職場や生活で習った漢字やひらがなを使うことができて楽しくなった」などの感想があり、受講生にとって成果があった日本語教室の開催となった。

(3) 今後の改善点について

参加応募はあったものの、受講した外国人は少人数となった。平日の夕方開催ということも影響があったかと考えており、外国人が参加しやすい日時の設定を行うなどし、参加者が増えるよう周知方法などにも工夫し広く外国籍市民に情報が届くように努める。

[illegible]

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

(2) 目標の達成状況・成果

特にフェイスブックによる情報発信ではコメントやシェアにより広がりが見られ、外国人の日本語習得への関心の高まりが感じられた。

(3) 今後の改善点について

ホームページやフェイスブックでの情報提供を増やし、日本語教育への関心を高めていきたい。

4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

本市多文化共生プランの改訂にあたり、H28年に外国籍市民を対象に実施したアンケートから、成人用の日本語教育機会を求める声や日本人との交流機会に対する要望が高いことが分かった。本市にはブラジル系住民を中心として定住者・永住者が多く、日本語の能力が就労に直結するだけでなく、日本で子どもを産み育てる層も多いことから、必要な日本語教育機会の提供および日本語指導に携わる人材育成を行うものである。また、日本人側からはコミュニケーションのための交流の重要性と手段の支援に対する要望が見られたことも鑑み、地域の人々と交流を行いながら、日本語の習得・実践を行うことのできる機会を設ける。

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

日本語教室に参加した外国籍市民とボランティアの方のコミュニケーションが良好に図られ、今後、ボランティアの方による日本語教室が開催されることが予定されている。ボランティアの方は、最初は支援できるか不安な気持ちで取り組みに参加されたが、日本語教室で実際に実践されたことがとても良い結果となり、外国籍市民に寄り添うサポーターの重要性を理解していただくことができたと感じている。ボランティアの方と参加した外国人との相互の意見が一致し、日本語教室を継続してボランティアとしての活動が繋がったことが事業の成果と捉えている。地域交流サロンは、回を重ねるごとに参加者が増加し、地域住民とのコミュニケーションが育まれ信頼関係を築くことができた。地域での外国籍住民の生活の支援者につなげていきたい。

(3) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

地域交流サロンの開催にあたり、自治会、婦人会、住民と連携し、企画運営の協力体制が図られた。ボランティアの方とも意見交換する機会を設け、外国籍市民への支援について情報共有を行うことができた。

(4) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

外国人を雇用している企業や関係団体へ出向き周知した。本市の外国籍市民の多くを占めるブラジル、中国など外国人キーパーソンと連携し周知に努めた。国際的な交流事業、大学等でのPR、外国人向けの情報誌などにも掲載した。そのほか、HPやフェイスブックでも発信した。受講生の口コミからも申し込みがあった。

(5) 改善点、今後の課題について

日本語教室開催にあたって、受講生の日本語能力のレベルの差があることから、受講する外国人の状況を見極めて内容を決める必要がある。地域交流サロンでは、交流しながら日本語の習得につなげることは、外国籍市民の日本語能力のレベルが分からない状況の中、大変重要な課題であった。人の参加を促すには人を呼び込む仕掛け作りも重要であり、交流してコミュニケーションを図り、日本語を学ぶ機会とするには、ボランティアの方の支援も加えた取り組みとしたい。全取り組みに対して外国籍市民への周知方法をもっとわかりやすく発信し、日本語を学びたい外国人へのPRを積極的に行っていききたい。今回の取り組みから得られた外国籍市民のネットワークをさらに活かし、今後の取組みにつなげていくことが重要であると考えている。

(6) その他参考資料